





小田香 映画上映会

2022年4月29日(金祝) **観覧無料**

13:30 - 14:45 『セノータ』

14:55 - 15:20 『FLASH』

15:20 - 15:30 小田香氏によるアフタートークを予定

会場：青森県立美術館シアター

※事前申込制(定員60名、先着順、定員になり次第締切)



『セノータ』(2019) 75min 13:30 - 14:45 ※Blu-ray 上映

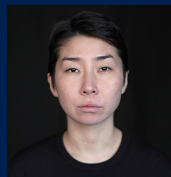
メキシコ、ユカタン半島北部に点在する、セノータと呼ばれる洞窟内の泉。セノータはかつてマヤ文明の時代、唯一の水源地であり雨乞いの儀式のために生贄が捧げられた場所でもあった。現在もマヤにルーツをもつ人々がこの泉の近辺に暮らしている。現世と黄泉の世界を結ぶと信じられていたセノータをめぐって交錯する、人々の過去と現在の記憶。そこに流れるのは「精霊の声」「マヤ演劇のセリフテキスト」など、マヤの人たちによって伝えられてきた言葉の数々。カメラや水中と地上を浮遊し、光と闇の魅惑の映像に遠い記憶がこだまする。



『FLASH』(2015) 25min 14:55 - 15:20 ※Blu-ray 上映

サラエボからザグレブまで行く長距離列車の車窓に流れる異国の景色を見ながら、なぜか懐かしい気持ちになり、ふと、じぶんの思い出せる限り一番はじめの記憶はなんだろうという疑問が湧いた。思い出せるように思い出すことのできない始まりの記憶を巡る列車の旅。

小田香 ODA Kaori



イメージと音を介して「人の記憶のありか」「人間とは何か」を探求するフィルムメーカー／アーティスト。1987年大阪府生まれ。米国ホリンズ大学教養学部映画コース修了。2016年映画監督タル・ペーラ指揮によるfilm.factory修了(第1期生)。2015年ボスニアの炭鉱を主題とした映画『鉱ARAGANE』(2015)で山形国際ドキュメンタリー映画祭・アジア千波万波部

門特別賞受賞。2019年ユカタン半島の洞窟泉を撮影した映画『セノータ』。2020年大島渚賞受賞。映画制作と並行してカメラを向けた土地や人とのつながりを保つための絵画や立体作品制作を行う。主な展覧会に「特集 小田香光をうつして—映画と絵画」(まなびあテラス、フォーラム東根山形, 2021)、「恵比寿映像祭2022: スペクトル後」(東京都写真美術館)等。

<https://www.fieldrain.net/>

申込方法

- メールタイトルを『美術館堆肥化計画 2021 成果展示イベント 申込』として下記のアドレスまでお申込みください。お申込いただいた後、当館から受付完了メールをお送りします。

taihika@aomori-museum.jp

- メール本文には参加される方全員の「氏名」「住所」「電話番号」「メールアドレス」をご記載ください。

問合せ先

青森県立美術館

038-0021 青森市安田宇近野185 TEL 017-783-3000